

インフラメンテナンスを考えるシンポジウム

今使っているインフラ、 100年後はどうなってる？

インフラメンテナンスで広がる協働の輪 in 広島
～地域住民・自治体・学校・企業が繋がる～

主催：NPO法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会（SLIM Japan）

後援：インフラメンテナンス国民会議「ちゅうごく」、一般財団法人 人生100年社会デザイン財団

基調講演

人生100年社会のデザインと
100年インフラ

牧野篤氏（東京大学教育学研究科教授）

基調報告 & パネルディスカッション

100年インフラと
インフラガーディアン資格の創設

牧野篤氏、今井努氏、浅野和香奈氏、津田誠氏
徳山工業高等専門学校、SLIM Japan

12/9 (木)

14:00～17:00



本シンポジウムはCPD (2.9単位) 対象です

このシンポジウムは
“ハイブリッド形式”で開催します！

リアル



会員
限定

オンライン



無料

広島県広島市南区京橋町

Web会議ツール「Zoom」

WEB参加 申し込み方法 ※申し込み締め切り日：12/8(水)



◆スマートフォンの場合：右記のQRコードから申し込みフォームへアクセスし、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

申し込み用QRコード→



◆PCの場合：下記のURLから申し込みフォームへアクセスし、必要事項をご記入の上、お申し込み下さい。

申し込み用URL→

<https://ws.formzu.net/dist/S47517367/>

NPO法人 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 (SLIM Japan)

Society for Lifecycle Infrastructure Management

TEL : 082-222-0570 E-mail : west@slim-japan.org



登壇者プロフィール

牧野 篤 氏

東京大学大学院 教育学研究科 教授
一般財団法人 人生100年社会デザイン財団 代表理事



社会教育・生涯学習を専門とし、日本のまちづくりや高齢化と過疎化問題などを研究。近年は、自治体と一緒に公
民館や生涯学習の共同調査を行ったり、多世代交流型コミュニティの構築を進めたりしている。
文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会委員、文部科学省生涯学習ネットワークフォーラム企画実施委員、同超高齢
社会における生涯学習のあり方に関する検討会委員などを歴任。
著書に『人生100年時代の多世代共生:「学び」によるコミュニティの設計と実装』『社会づくりとしての学び-信頼を贈りあ
い、当事者性を復活する運動』など多数。

今井 努 氏

橋守隊(CATS-B)発起人代表



「産官学民有志による協働の橋守活動」

第1回インフラメンテナンス大賞国土交通大臣賞を受賞。
橋梁メーカーに10年間勤めた後、地方自治体に転職。
管理者の立場になり、想像以上にインフラが痛んでいる状況に危機感を覚え、ボランティア団体として橋守隊を発足し、山口県周南
地域を拠点に活動。一般の人にインフラに興味を持ってもらい、その維持管理の重要性を伝えるために、地域の橋の清掃や簡易点検、
補修体験を行う橋守活動の他、イベントを通じた広報活動なども行っている。

浅野 和香奈 氏

日本大学工学部客員研究員
(株)アイ・エス・エス コンサルティング事業部



「平田村ほか住民参加型橋梁点検」

第2回インフラメンテナンス大賞国土交通大臣賞を受賞。
住民主導型橋梁点検「セルフメンテナンスふくしまモデル」を展開し、福島県平田村や宮城県大郷町をはじめ、各地で活動。地域住
民主体のチェックシートを用いた橋梁の点検や橋mapによる結果の見える化、橋みがきや、親子を対象にした「夏休み自由研究講
座」など、子供たちへの教育にも取り組んでいる。
2019年には土木広報大賞、2019教育・教材部門優秀部門賞を受賞。

津田 誠 氏

石川工業高等専門学校 環境都市工学科 教授



「高専生と地域住民との橋梁きずなプロジェクト」

石川工業高等専門学校卒業後、首都高速道路公団に就職。
2007年の能登半島地震で当時の能登有料道路が甚大な被害にあったことをきっかけに石川県に戻る。2017年に石川工業高
等専門学校に着任。
地域住民が主体となって橋梁の点検を行う、「橋梁きずなプロジェクト」と「舗装きずなプロジェクト」に取り組んでいる。
橋梁を地域住民と産官学と協同で維持管理し、橋梁の長寿命化を図り、地元の橋梁に対して愛着をもってもらうとともに、学生の橋
梁点検に関する学習の一環としている。

徳山工業高等専門学校「わくわくピーナッツ」



「一般市民とインフラメンテナンスを直結する仕掛けの提案」

第1回全国高等専門学校インフラマネジメントテクノロジーコンテスト最優秀賞を受賞した学生たち。
土木に関わりがない一般市民が”知らず知らずのうちに”橋などのインフラの維持管理に参加し、そして興味を持ち、さらに
新たな財源まで創出するしくみとして、AI画像診断や次世代高速通信技術を活用したスマホゲームのアイデアを提案。
橋梁の現場見学や周南市での橋守活動など、インフラに関する取り組みを積極的に行っている。
(写真左から 稲田、谷口:土木建築工学科5年)

SLIM Japan 西日本支部



「企業参加型橋梁メンテナンスの実践点検」

2021年7月に西日本支部を設立。
(株)アイ・エス・エス 広島支社社員で構成されており、本職では橋梁の設計や保全業務にあたる。
公共インフラの老朽化が社会問題になっている中、完成後の橋梁のあり方についても考えるべきと思い、SLIM Japan
の活動に加わる。
今年7月・10月には「地域住民参加型 橋・歩道橋の清掃メンテ活動」を実践した。
(写真左から 山口、天野、吉岡、小笹山)

注 意 事 項

※1 事前登録制

基調講演・基調報告・パネルディスカッション
は人数に限りがありますので(約500人)、
事前登録制にしています、当NPO法人の
上記フォームより必要事項を入力のうえ、
お申込みをお願いします。

※2 継続教育・学習(CPD登録について)

当シンポジウムでは、基調講演・基調報告・パネルディスカッションを全て
視聴していただき、レポートを提出していただいた方に(公社)土木学会
のプログラム認定を受ける予定です。(当日の受講確認も行います)
なお、土木学会以外の団体に提出する場合の方法等は、提出先団体に
事前にご確認ください。他団体が運営するCPD制度に関する内容につ
いては回答いたし兼ねます